

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・それぞれの現場における子育て家庭の現状を把握し共有、地域課題を確認しながら事業に反映させた。
- ・根拠の明確化、市政、区政方針に基づく計画になっているかなど、コロナ禍で拠点と区の情報共有の話し合い時間が十分とれなかった。

【今後改善が必要と思われること】

- ・国の施策が大きく変わり、社会状況も常に変化している。変革期にある子育て家庭のニーズを共に検討し、事業に反映させていく。
- ・担当者が交代しても途切れないよう、協働事業のプロセスを丁寧に確認し合いながら進めていく。
- ・拠点事業17年となり、民間企業や教育機関から拠点への働きかけが増えている。民間の力をどう活かしていくか検討していく。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・区の事業や、関係機関との会議などの公的ネットワークと、拠点の地域に密着したネットワーク機能の重なり合いを基盤に、拠点の機動力を生かした事業を進めることができた。
- ・地域と共に進める「すくすくかめっ子事業」や拠点事業について、区の事業担当と法人・拠点の担当が密に連絡を取り合いながら、事業を進めることで、協働の効果を上げることができた。

【今後改善が必要と思われること】

- ・拠点のネットワークや協働関係の広がりにおいて、事業に取り組む上での優先順位や間接援助機能について、区と拠点が共に検討を重ねていく。
- ・横浜市事業のDXに伴う、新たな情報発信体制の構築に協働で取り組んでいく。
- ・子育てサポートシステム事業の業務量増加やコーディネート上の課題に対して、スタッフ研修などを区と拠点が共に検討していく。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・毎月の定例会において、事業報告と課題について丁寧に話し合い、共有できた。年度に2回それぞれの拠点事業の機能ごとに振り返り、課題や子育て家庭のニーズを把握・検討し、次年度に反映させた。
- ・区が拠点事業の内容や効果を理解した上で、子育て家庭に紹介し、必要な事業につないでいる。

【今後改善が必要と思われること】

- ・限られた時間の中での話し合いとなり、効果的に振り返りを事業に反映させる、更なるチーム力が必要となる。
- ・区域で実施する事業について、互いの役割を確認しながら、連携体制を検討していく。
- ・協働事業としての拠点事業について、効果を表す方法と発信する方法を探っていく。
- ・客観的な資料や指標に基づき、次の計画に活かしていく。